

# 長万部の

# 教育

# コーナー



## 今、学校では

「みんなで育てた野菜はおいしいね！」

さかえ保育所

さかえ保育所では、1歳児〜5歳児の全クラスで野菜作りをしています。5歳児の年長クラスでは、畑でどんな野菜を育てたいのかを話し合い12種類の野菜を畑やプランターに植えました。話し合いの際には、「苦手な野菜もみんな育てたら食べられそう



「枝豆と一緒にピース！」

気がする」と発言があり、あえて苦手な野菜も作る事になりました。「おいしい野菜になってね〜」と声をかけながら水やりをしたり「ちよつと芽が出てきた」「実がついてきた」と生長を喜んでいました。ミニトマトは実が赤くなる度に収穫し、もぎたての味を楽しんでいます。今年初めてのスイカ作りにも挑戦中！小さくても毎日大きくなっていくのを見ながら収穫を楽しみにしています。来月には畑で作った野菜を使ってカレー作りをする予定です。自分たちで生長を見守り、育てた野菜を食べるなど様々な経験を通して食育に繋がっていきたいと思います。

The protagonists are ourselves ~ 主役は我々自身

## 長万部中学校

9月9日(金)に第四十一回学校祭を開催いたしました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入場数に制限を設けて実施いたしました。

各クラスが素晴らしい合唱を創り上げようと頑張った合唱コンクール、各クラスの魅力を歌詞動画で表現した学年紹介VTR、各グループの熱演で会場を魅了した生徒会企画、ユニークな演出と迫力のサウンドに圧倒された吹奏楽

部発表、全校生徒の力を結集したステージ壁画。生徒たちは、日々各自の持ち味を精一杯発揮し、企画・運営・準備、そして後片付けまで、立派にその役割を果たしました。最後の全校合唱『群青』を歌う生徒たちの充実しきった表情を見ながら、この学校祭が、大切な行事として、それぞれの心に大切に刻み込まれたのを感じました。会場の皆様の心の中にも多くの場面が残ったこ

とと思います。地域の方々、保護者の皆様には、大きな声援とステージへの温かい拍手をいただきましたことに、心よりお礼申し上げます。



## 北海道長万部高等学校への支援について

教育委員会では、先月号でお知らせした補助金等のほかにも支援を行っています。

### ◎スクールバスの運行による支援

- ・長万部高等学校が実施する修学旅行、宿泊研修、遠足などにスクールバスを運行することで保護者にかかる負担を軽減しています。

- ・静狩、双葉、蔵岱方面の登下校にスクールバスを運行しています。

※国縫、中ノ沢方面にはJRによる通学費の補助があります

- ・黒松内方面の生徒が部活動等によりJRの運行がない時間の下校となる場合にスクールバスを運行しています。

### ◎各種検定に対する補助

長万部高等学校において実施している「英語検定」「数学検定」「漢字検定」の受験料に対し、一部補助しています。

### 【お問い合わせ先】

長万部町教育委員会学校教育課

(02-12748)

# 写真で見る学校の様子

## 長万部高等学校

## 長万部中学校

## 長万部小学校



夏季休業期間中(バドミントン部)



8月19日  
スキルアッププロジェクトより



8月26日  
クラブ活動を行いました  
(アートクラブ)



夏季休業期間中(バレーボール部)



8月26日  
全道吹奏楽コンクール(札幌市)より



8月30日  
妊婦体験をしました。(4年生)



夏季休業期間中(美術部)



9月9日  
学校祭学級写真(3年生)より



9月1日  
北海道シェイクアウトに参加しました。

## 「空飛ぶクルマ」

長万部高等学校長

濱田 哲也

今年の4月に約二十五年振りに道南での勤務となり、不安よりも感激でいっぱいです。保護者の皆様や地域の皆様に支えられ助けていたいただき生徒たちは充実した毎日を送っています。

さて、近未来の話を紹介いたします。それは「空飛ぶクルマ」の実用化についてです。アニメ「ドラえもん」に出てくる「どこでもドア」や「タケコプター」に憧れていました。あの小さなプロペラを頭につけて大空高く舞い上がりたいと思っていました。現実的には不可能です。ありえません。しかしながら昨今ドローンが発明され実用化されています。地上で操作する空飛ぶカメラです。4つのプロペラ、壊れにくく軽量のフォーム、カメラだけでなくマイクも備えています。動く物の空撮には最適です。この発明により「車は地上を走るもの」の概念が崩壊しようとしています。まもなく「空飛ぶクルマ」が誕生するからです。推進力は飛行機同様ジェットエンジンかと思いきやプロペラになりそうです。ドローンにならって、ジェットエンジンなら数百メートルの滑走路が

必要ですがプロペラならその場での離着陸が可能です。ガソリンの時代から電気または新しいエネルギーの時代に突入します。空を飛ぶための法整備や航空機並みの安全の確保などハードルは高いです。あるベンチャー企業が空飛ぶクルマを開発し、有人飛行実験が始まりました。来年の実用化を目指しています。この「空飛ぶクルマ」は高さ2メートル、幅と長さが4メートル、8つのプロペラが電気で作動します。東京や大阪の湾岸で2人乗りからサービスを始め、2025年の大阪万博でも活用する構想になっているようです。

この話のポイントは、①発想の転換の大切さ、②夢中になって働く(開発する・研究する)ことの素晴らしさです。車は地上を走るという概念を打ち破った勇氣、人々の需要を見極めたコストパフォーマンスの追究、様々な困難を乗り越える粘り強さ、直向きに夢中に研究する喜び。「空飛ぶクルマ」は私たちに多くのことを教えてくれます。